

財務省 ODA 担当主計官の皆さん。
官僚としての責務を果たしてください。

以下、皆さんの怠慢ゆえに発生した ODA 予算の無駄遣い実例を挙げます。

- ① 我が外務省は、一昨年、パキスタン政府との国交 70 周年を記念して、同国に「安全な飲料水供給、インフラ拡充」の目的で「70 周年だから 70 億円だ」と、安易に無償で提供しました。

現在、パキスタン政府は POLY-GLU から直接浄水剤を購入して、私達の Zoom での直接指導を得て、同国北部地方での、水中のヒ素除去を重点に、独自にインフラ拡充に努めています。我々に任せて貰えば、5 億円も必要としない事業です。

- ② 私は 2 年間、JICA が支援する民間企業への助成案件の審査員を務めました。座長は大野泉先生です。メンバーは 5 名で構成されていました。常に、反対は私 1 人、賛成残り 4 人でした。

酷い案件では、富山の薬売り、置き薬事業に 5,000 万円助成しようと、4 人の自称有識者達は本気でした。私は「置き薬したら翌日には全部売り払われているよ、一年後に代金回収に行っても、一軒たりとも支払うところはないよ」と、断言しました。ああや、こうだで、ほとんど審査を続けるのが嫌になり辞任しました。

断言しますが、この助成制度は税の莫大な無駄遣いです。この制度で、儲けすぎるほど儲けているのが委託を受けている 2 社のコンサルです。

大野先生にしても、失敗続きの事業なのに、責任感ゼロではないですか？

ほんの一部で良いから、誇りを持ち、恥を知って欲しいです。

こうした悪行は外務省と一体になり行われているのです。

JICA の予算は約 1 兆円、JICA 関連の職員、約 3,000 名、この大きな組織が、大阪の中小企業の活動で、このまま小社が頑張り続ければ「JICA は不要だ」と、国民が言い出しますよ。既に、国別件数では JICA の件数を大きく上回っているのです。外務省、JICA、「愚民国会議員の振る舞いを見れば」幕末時の官僚たちの無様振りがダブって見えませんか？

名誉棄損でも、何でも正面から受けて立ちます。

令和 4 年 8 月 22 日

小田 兼利